



上島町内の各保育所において、令和5年度幼年消防クラブ結団式を行いました。園児たちは、火災の恐ろしさや避難をするときの心がけについて学んだ後、ポンプ車の見学を行いました。最後に記念撮影を行い、園児たちは、『ぼくたち わたしたちは 火あそびはしません』と大きな声で約束をしました。これから1年間、火災予防について学び、防火パレードなどの啓発活動にも取り組みます。



5月9日 弓削保育所



5月10日 岩城保育所

令和5年度 幼年消防クラブ結団式



5月11日 生名保育所

熱中症について学ぼう

☆予防と対策

暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。体が暑さに慣れること（暑熱順化）について知り、暑くなる前から熱中症の対策を行いましょう。

☆暑熱順化（しょねつじゅんか）とは

暑熱順化とは、体が暑さに慣れることです。暑い日が続くと、体は次第に暑さに慣れて（暑熱順化）、暑さに強くなります。

☆暑熱順化による変化

人は運動や仕事などで体を動かすと、体内で熱が作られて体温が上昇します。体温が上がった時は、汗をかくこと（発汗）による気化熱や、心拍数の上昇や皮膚血管拡張によって体の表面から空気中に熱を逃がす熱放散で、体温を調節しています。この体温の調節がうまくできなくなると、体の中に熱がたまって体温が上昇し、熱中症が引き起こされます。暑熱順化がすすむと、発汗量や皮膚血流量が増加し、発汗による気化熱や体の表面から熱を逃がす熱放散がしやすくなります。

☆暑熱順化に有効な対策とは

体を暑さに慣れさせることが重要なため、実際に気温が上がり熱中症の危険が高まる前に、無理のない範囲で汗をかくことが大切です。日常生活の中で、運動や入浴をすることで、汗をかき、体を暑さに慣れさせましょう。暑熱順化には個人差もありますが、数日から2週間程度かかります。暑くなる前から余裕をもって暑熱順化のための動きや活動を始め、暑さに備えましょう。



令和5年4月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R5累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	18	12	9	0	1	40	148

(令和5年4月30日現在)

上島町消防本部・消防署
消防防災課

☎77-4118
☎77-3166

危険物安全週間

消防庁では危険物を取り扱う関係事業所をはじめ、広く国民の危険物に対する意識の高揚と啓発を図るため、毎年6月の第2週（令和5年度は6月4日（日）から6月10日（土））までの期間を「危険物安全週間」としています。

危険物事故の防止と危険物の貯蔵・取扱いの安全を呼びかけるため、全国から標語を募集し令和5年度は「意志つなぐ連携プレーで事故防ぐ」という標語に決定しました。

かんきつ類にはカイガラムシと呼ばれる害虫が発生します。葉や枝、果実に寄生して樹の成長や果実の外観品質を損なう被害が発生するので、農業による防除が必要な場合もあります。今回は町内の力かんきつ園でよく見られる主要なカイガラムシについて解説します。

1 カイガラムシ類の特徴

カイガラムシ類の多くは、虫体の外部に産卵、卵からふ化してしばらくは活発に歩行しますが、定着すると動かなくなります。（一部、成虫になっても歩行する種もある）成長すると蠟物質の殻や粉に覆われ水をはじく性質が強く、一般の農薬の効果は期待できません（冬季の機械油乳剤は除く）。農業による効果的な防除時期は、幼虫期に限られます。（防除時期は表参照）

2 主要なカイガラムシ種の特徴

表 かんきつ類の主要なカイガラムシ類の防除適期

種 名	防除適期（幼虫最盛期）	
	第1回	第2回
ヤノネカイガラムシ	6月上旬～6月中旬	7月下旬～8月中旬
イセリアカイガラムシ	6月中旬～6月下旬	8月中旬～8月下旬
フジコナカイガラムシ	6月中旬～6月下旬	8月上旬～8月中旬
ナシマルカイガラ	6月中旬～6月下旬	8月中旬～8月下旬
ロウムシ類	7月中旬	

限られます。（防除時期は表参照）主な被害は、虫体の果実寄生や「すす病」が発生して果実や葉が黒くなり外観を大きく損ないます。

③ フジコナカイガラムシ
成虫は、白い蠟物質に覆われ、イセリアカイガラムシよりも小さく成虫は白い楕円形です。（写真3）幹の隙間や果実の接した部分に寄生し、成虫は歩行でき、産卵期は虫体が綿毛で覆われます。多発すると激しい「すす病」の発生や果実の着色異常が発生します。有力な天敵は少なく、幼虫期に2週間おきに2回の殺虫剤防除が必要です。冬季の機械油乳剤の効果は低い厄介なカイガラムシです。



写真3 フジコナカイガラムシ成虫と卵塊（下）

② イセリアカイガラムシ
成虫は、比較的大きく白い蠟物質に覆われ、よく目立つ。（写真2）虫体は柔らかくつぶすとオレンジ色を呈する。年間3回発生し、多発すると「すす病」が発生します。ベダリアテントウという有力な天敵によりしばらくすると食い尽くされていなくなりますが、適期防除逃すと多発することがあります。



写真1 ヤノネカイガラムシの付着した果実



写真2 イセリアカイガラムシ成虫と歩行幼虫

⑤ ロウムシ類
（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）
成虫は、蠟物質に覆われ、ツノロウムシは白色、ルビーロウムシは赤紫色をしています。（写真5）樹の先端付近の枝に数珠つなぎに寄生します。年間1回発生し、多発すると「すす病」が発生します。冬季の機械油乳剤の効果は低いので、発生園では寄生枝の切除を行い7月中旬に殺虫剤の散布が有効です。



写真5 ルビーロウムシ成虫

④ ナシマルカイガラムシ
成虫は丸く小さく、葉や枝、果実に寄生します。虫体が小さいので、夏季の幼果で緑の濃い斑点が点在していることで発生に気づきます。（写真4）年間3回発生し果実では、虫体の付着した部分が緑斑となるため果実品質が低下します。冬季の機械油乳剤が有効です。



写真4 ナシマルカイガラムシの寄生果実（8月）